

研修①

熊本地震について学ぶ

(研修アドバイザー)

竹内 裕希子 氏 熊本大学 副学長・教授

平成28年熊本地震における 南阿蘇村の被害

(2021年1月現在南阿蘇村HP等より作成)

人的被害：死者31名（関連死15名含む）

家屋被害：全壊699世帯、半壊989世帯、一部損壊1,173世帯

*当時の60%の世帯が家屋被害を受けた

ライフライン：村内全域で停電、3,761世帯（約80%）で断水

交通：JR豊肥本線・南阿蘇鉄道の不通

阿蘇大橋の崩落、長陽大橋・俵山トンネルの損壊

避難所：南阿蘇中学校や白水小学校など12カ所が開設

臨時給水所の設置がされた

最大時2,688名が避難

2016年2月時点での南阿蘇村の人口と世帯数

人口：11,652人

世帯数：4,744世帯

2016年4月時点での学校

中学校 1校（2016年4月に村内3つの中学校が統合）

小学校 3校

南阿蘇中学校における防災教育

南阿蘇中学校は平成28年4月に3つの中学校が合併して設立された。開校から2週間で熊本地震が発生し、学校は避難所となった。最も多い時で約1,300名の避難者を受け入れ、避難所生活や車中泊を経験した生徒も多かった。

道路や鉄道の損壊により通学が困難になった生徒もあり、村内にある私立高校の宿泊施設を借り受け臨時の寄宿舎が設置され、15名が最長10ヶ月間利用した。寄宿舎は保護者、教職員、地域住民によって運営された。

合併される前の旧久木野中学校では、2011年の東日本大震災で被災した岩手県釜石市の中学生の取り組みをきっかけに防災教育に取り組んでいた。この経験から「中学生にも避難所でできることがとあるのでは」と生徒から声が上がり、共助の1つである避難所運営に重点を置き1～3年生の全校生徒を対象に防災教育を開始した。授業は生徒の心的ストレスに配慮し、県内の避難所がすべて閉鎖された2016年11月から開始した。



熊本地震時の体育館の様子。最大時約1300名が避難した
提供：南阿蘇村立南阿蘇中学校



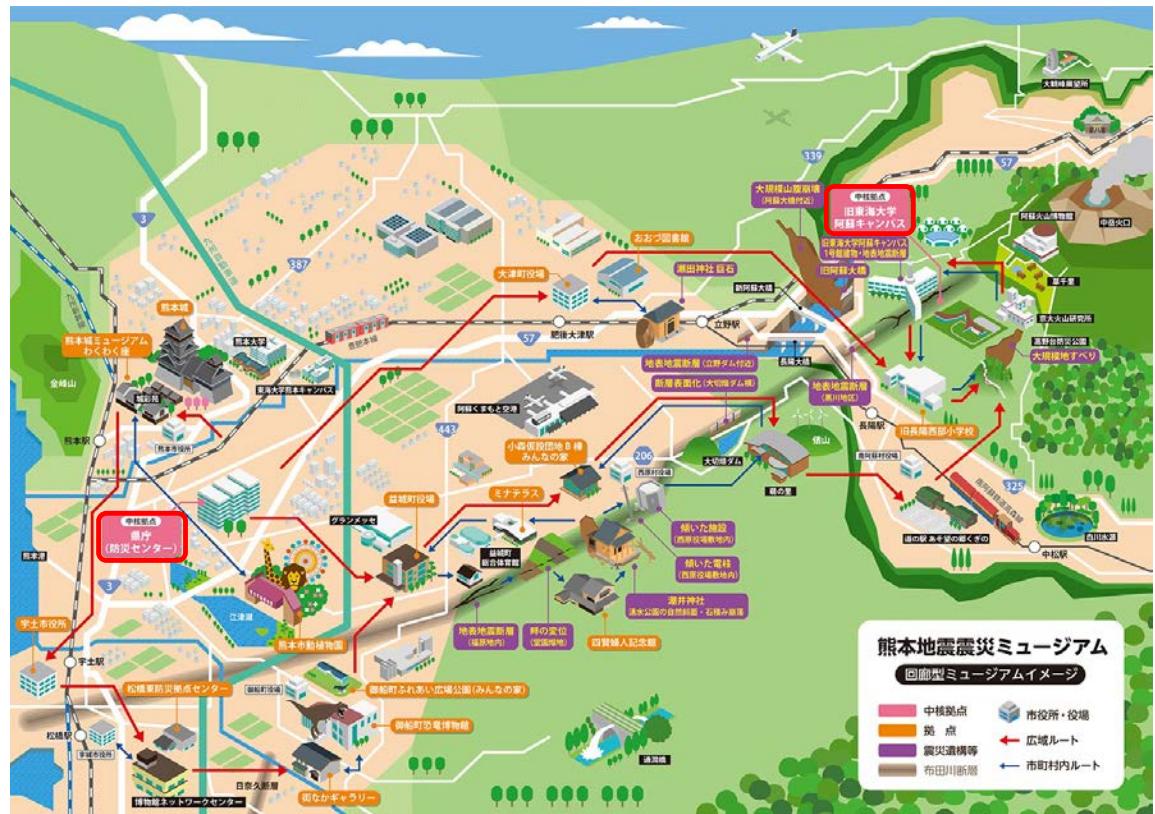
防災教育では、静岡県が作成したカードゲームHUGを実施し、その後熊本地震の経験を活かした南阿蘇中学校版HUGの作成した。作成したHUGを3次元で実施するリアルHUGなどの演習を中心20コマ（1コマ50分）で構成した。

防災教育内容の構築と初期の実施は熊本大学竹内研が支援した。その後は教員が主体となり継続されたが、2020年のコロナで中断をした。

2つの中核拠点と地域の拠点や震災遺構を巡る回廊型ミュージアム

記憶の回廊

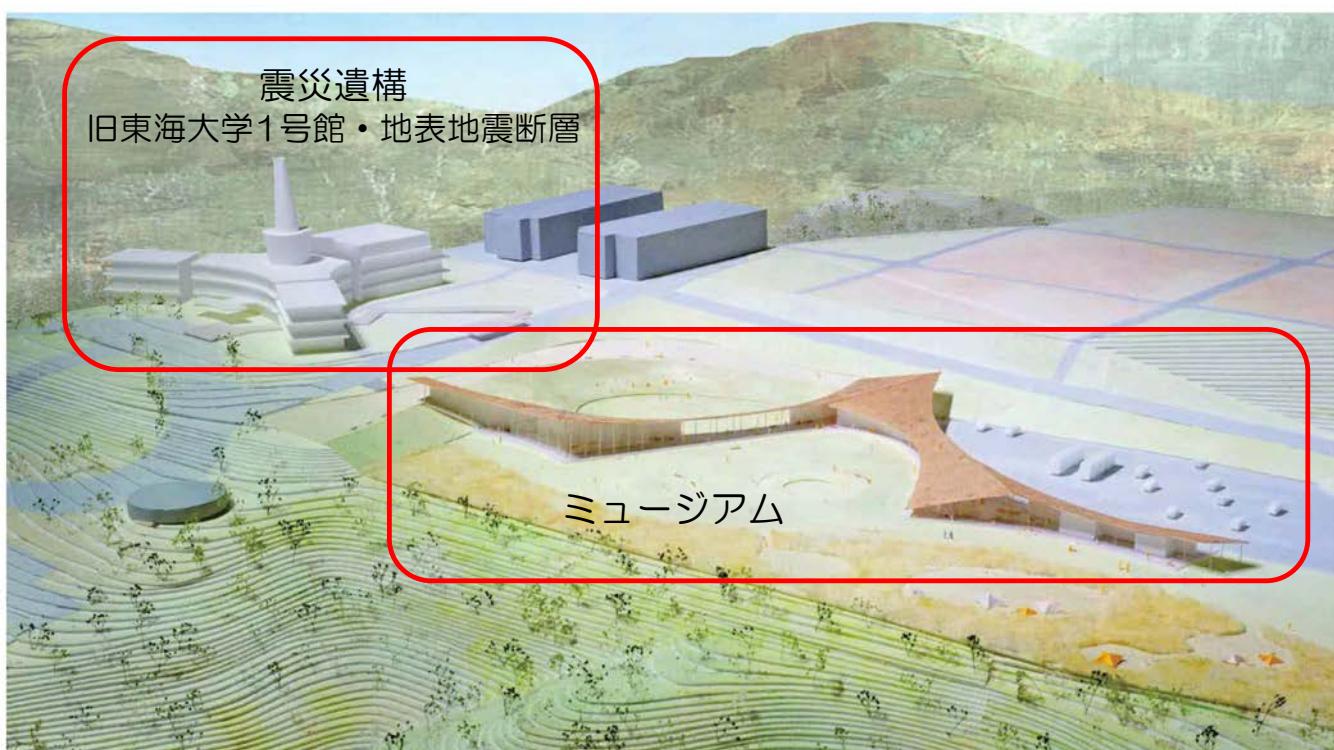
熊本地震震災ミュージアム
回廊型
フィールド
ミュージアム
熊本地震の記憶を未来へ
遺し学ぶ



2023年5月17日開館 熊本県防災センター展示・学習室

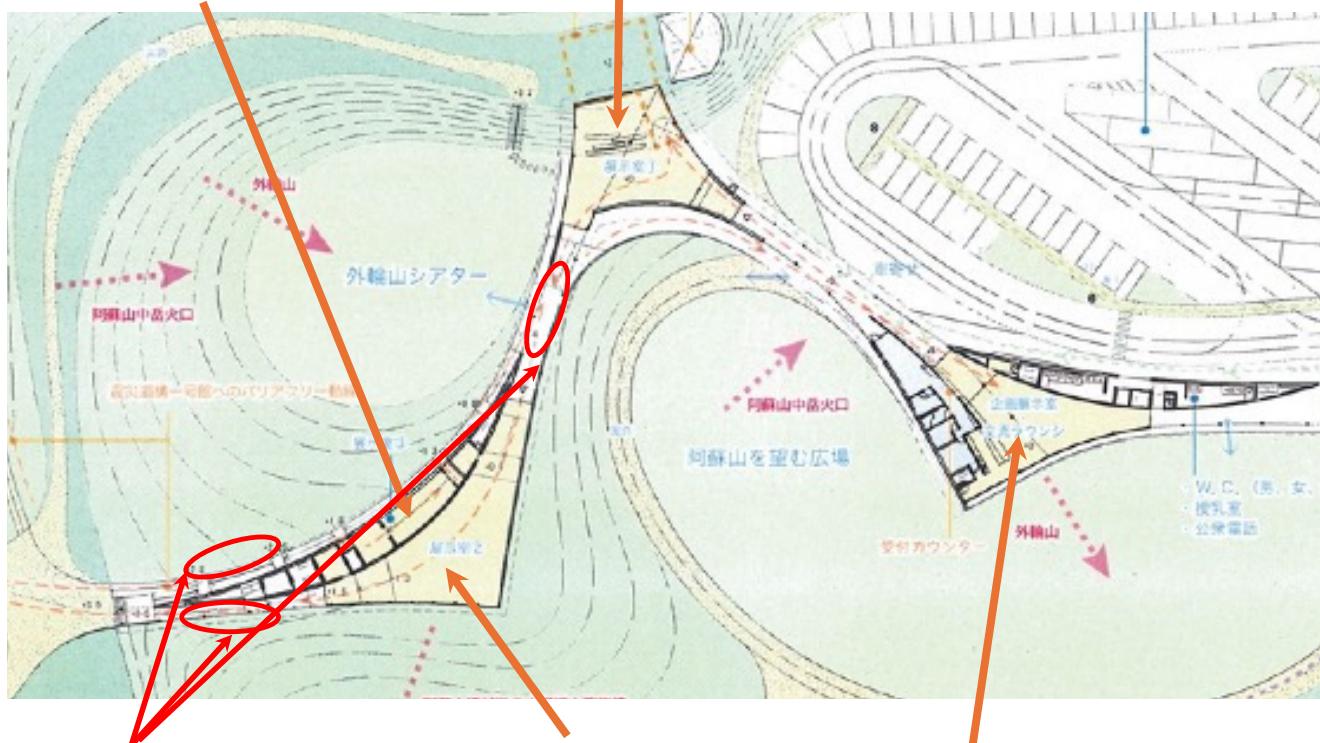
2023年7月15日開館 熊本地震震災ミュージアムKIOKU(旧東海大学阿蘇キャンパス)

2023年7月15日オープン 熊本地震震災ミュージアムKIOKU



展示室3
教訓と備えを知る

展示室1
熊本地震を知る



あなたへの問い合わせ
(3箇所)

展示室2
大地の成り立ちを知る

企画展示室

継承の仕方

■モノの継承(遺構の保存)



2016年12月26日撮影

現場現物保存



移設保存



アーカイブ保存

■記憶の継承

- ・体験者による直接継承
- ・体験者や記録による間接継承(語り継ぎ)